

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

P2「2013年3月期 第2四半期累計 決算 <概略>」

- ・ 営業利益は、前年同期比で294億円増益の273億円となりました。
- ・ 売上高については前年同期比で減収ですが、為替影響除くと、グループ全体でプラス0.6%でした。
- ・ 第2四半期は、欧州の事業環境が引き続き弱かったことに加えて、米国が9月になって急に落ち込みました。米国は、選挙などの不透明な環境の影響でお客様が買い控えをした印象を持っています。
- ・ 一方で、昨年度の終わりから今年度の初旬にかけて発売したA4MFPなどの新製品やMDS、ITサービスなどは着実に成長しています。
- ・ 構造改革については、効果が確実に出ているということと、前年度の費用と比べて今年度は少し費用が減っているということもあり、ネットで368億円の増益効果がありました。
- ・ フリーキャッシュフローは、前年同期比で132億円改善しています。
- ・ 上記状況を踏まえ、2013年3月期の通期見通しについて、売上高は上期の未達分を修正してますが、利益については第1四半期の時の見通しを、継続します。
- ・ 上期の配当金は、計画通り12.5円とします。期末の配当金は通期見通しを達成することを前提に、予想を16.5円に引き上げます。

P3「2013年3月期 第2四半期累計 損益計算書」

- ・ 売上高は、9,174億円と対前年比2.3%の減収、為替の影響を除くととプラス0.6%の増収となりました。
- ・ 為替影響については、ドルは昨年とほとんど変わってませんが、ユーロが13円も落ち大きな影響がありました。
- ・ 営業利益は、販管費が着実に下がり、見通しの300億円には未達ではありますが、273億円となりました。

P4「2013年3月期 第2四半期累計 営業利益:前年比増減」

第2四半期累計の営業利益は、前年第2四半期累計のマイナス20億円の赤字から今期273億円と+294億円の増益となりました。その要因分析になります。

<販売増>

販売増により42億円の増益となりました。PENTAXやドイツのITサービス会社ADAの連結効果や、基盤事業では、LPやプロダクションプリンティング、ITサービス等が堅調に推移しています。予想通り売り上げが伸びてない理由は、収益性を重視し、製品の入れ替えを行っていることなど

によります。例えば、利益率の低い他社製品の仕入れをやめる、計量器事業を他に移管するということを行っています。

<製品原価低減>

年間計画50億円に対し、第2四半期累計は21億円増。コストダウンは継続的に進めており、ほぼ計画通り進んでいます。

<研究開発費>

研究開発費は50億円減りましたが、製品の開発は、計画通りに動いております。シミュレーション等を活用することで試作品の製作を抑え、開発費が下がってきています。

<その他経費>

その他の経費増は119億円と大きなマイナスになってます。PENTAXやADAの連結影響や、昨年度末のタイ洪水の影響に伴うバックオーダー解消のために、空輸出荷した影響が、この第1クォーターまで続きました。

<為替影響>

総利益で188億円のマイナス、販管費減が82億円のネットで、105億円の利益減となりました。

<前年度震災影響>

昨年の影響が、今年は無いということで36億円増です。販売減の要因もありますが実際に前年度直接的に支出した費用が、今年度は無くなったということだけを盛り込んでいます。

<構造改革費用>

経費が144億円昨年から減り、効果が224億円増えたことにより、ネットで368億円の利益増となりました。

P5「参考◇2013年3月期 第2四半期 業績補足」

<営業利益>

営業利益は、昨年度は第2四半期の構造改革費用計上や第3四半期の減損にてマイナスでしたが、そこから確実に回復してきてます。

<販管費および一般管理費>

研究開発費を除く販売管理費は前年度以前までの、1,600億円ほどの水準から今年度は1,400億円くらいの水準まで着実に下がってきました。

P6「2013年3月期 第2四半期累計 製品別売上高」

<画像&ソリューション分野>

画像&ソリューションは、為替を除くと-0.7%でした。オフィスイメージング、プロダクションプリンティングの売上はマイナスですが、ネットワークシステムソリューションはプラス成長でした。プロダクションプリンティングについては、前年第2四半期が震災影響からの回復で売上の伸びが高かったことに加えて、今年度はマクロ経済の弱さが影響しています。

<産業分野>

計量器事業の他企業への移管を進め、売上が減少しています。半導体事業も前年から売上が減少しました。

<その他分野>

PENTAXの連結影響で増収となっています。

P7「画像&ソリューション分野」

- ・ 第1四半期はMFP、プリンタ、PPなど画像製品のハードについては2%伸びましたが、この第2四半期はマイナス5%と落としています。ノンハードも第1四半期の3%から0%となっています。
- ・ MDS、ITサービスは17%、18%と堅調に伸びております。
- ・ プロダクションプリンティングにおいても、カットシート機は引き続き高い伸びとなっています。

P8「画像&ソリューション分野 概況/トピックス」

<日本>

需要環境が弱いことと、収益性重視の販売活動により売上高が減収になりましたが、利益改善は進展しています

<米州>

第2四半期累計では、9月にMFPの販売が伸び悩み、前年同期比で0.7%の減収。しかし、10月は回復してきています。

<欧州>

景気の鈍化に伴って、少し苦戦していますが、ソリューション提案などの展開により市場全体と比べると健闘しています。

<アジアパシフィック(AP)・中国>

中国のデモなどの影響は、大きな影響は受けていません。今後のリスク対応として、数年前に生

産を開始したタイ工場などを活用していきたいと考えています。

P9「産業分野／その他分野」

＜産業分野＞

リライタブルハイブリッドメディアなどサーマルメディア事業は伸びていますが、計量器事業の事業移管や半導体事業が昨年より減収となっていることにより、産業分野全体は減収になりました。しかしながら、営業利益は、構造改革効果により第2四半期累計で前年同期比+14億円の増益となりました。

＜その他分野＞

ペンタックスリコーは、6月末にK-30という1眼レフカメラを発売し、大変好調です。最近、Q10、PENTAX K-5 IIを発売しこの3つの系列の拡大に期待しています。

P10「連結貸借対照表(1)」

総資産の合計が2兆2185億円と、708億円ほど減っています。棚卸資産については、バックオーダーは解消しましたが、新製品の作り溜めということもあり、水準が変わっていません。棚卸資産の回転期間は2ヶ月を切るために、一段の合理化を図ります。

P11「連結貸借対照表(2)」

ネット有利子負債は、運転資金の増加で6,162億と増えています。なお、10月に入って日本政策投資銀行から300億の借入れをしています。環境対策に優れた企業ということで最も高い「S」の格付けをいただき、低金利にて借入れができました。この3月末に590億円の借入れ償還があり、それに充当していきます。株主資本比率は、前年同期と比べ若干ですが良くなっています。

P12「連結キャッシュフロー計算書」

フリーキャッシュフローは、前年から132億円改善しましたが、241億円のキャッシュアウトです。通期でキャッシュポジティブにすべく、下期は施策に取り組んで参ります。

P14「2013年3月期 損益計算書見直し」

- ・ 2013年3月期通期の売上をで1兆9,200億から、1兆9,000億円に下方修正をいたしました。為替を除く前年比では+2.4%となります。
- ・ 利益項目は全て据え置いております。
- ・ 研究開発費は、前年より若干減少の1,170億、設備投資は790億円と少し増やしております。
- ・ 新製品の寄与、着実に拡大しているMDS・ITサービス・プロダクションプリンティング事業、新

規事業などの貢献、また昨年度下期のタイの洪水の影響が無くなることなどもあり、見通しの達成は可能と考えております。

P15 「2013年3月期 営業利益見通し:前年比増減」

昨年度の営業利益マイナス 180 億円から、今年度見通し 700 億円となる要因を説明するチャートになります。

- ・ 昨年度発生した減損費用 370 億円、震災・タイ洪水影響の 60 億円が今年度は無くなります。
- ・ 構造改革のネット効果が 505 億円出る見通しです。これは昨年度の費用 341 億円がなくなるものと、今期費用 200 億円とのネットによる費用減少と、今年度の効果 364 億円の合計になります。
- ・ 販売増による粗利増で 113 億円、製造原価低減で 50 億円を見込んでいます。
- ・ その他経費は、新規連結などにより若干増加しています。

P16 「構造改革の進捗状況」

- ・ 昨年5月に中期計画の中で公表した計画から、大きな変更はありません。
- ・ 中期計画では3年間の構造改革費用を 600 億円としておりましたが、今回 541 億円といたしました。累積の構造改革効果も 700 億円から 750 億に上方修正しております
- ・ 人員最適化の施策については、中計期間中の10,000人規模の削減に向けて予定通り進んでいます。

P17 「2013年3月期 分野別売上高見通し」

- ・ ネットワークシステムソリューションは今年度 2,000 億円を超える規模になる見通しです。さらに引き続き伸ばしてまいります。(ネットワークシステムソリューションで提供している製品・サービスの事例を次のページで説明いたします。)

P18 「2012年「IMF・世銀総会」でソリューション・サービス提供」

2012年9月のIMF・世界銀行総会でリコーの下記のサービス・ソリューションを提供いたしました。これらの製品・サービスを活用しながら、ネットワークシステムソリューションビジネスの売上を伸ばしてまいります。

- ープロジェクターを3台つなげて投影する大きなデジタルサイネージ
- ーUCSを活用したバーチャルヘルプデスク
- ープレスセンターのドキュメント出力環境
- ータブレット端末によるペーパーレス会議

P19 「補足◇2013年3月期 主な新製品・サービス」

このチャートはドキュメント領域におけるリコーの戦略の方向性を示しています。この戦略に沿って、製品・サービスの展開を着実に進めております。

P20 「補足◇2013年3月期 主な新製品・サービス」

昨年度末に、A4MFPなど多くの新製品を発売し、今年の業績に貢献を始めています。
さらに、今年度、モノクロのMFPを含め多くの新製品を投入しています。
下期は、これらの新製品ラインナップにより、売上を伸ばしてまいります。

P21 「配当金&ROE推移」

昨年度は期末配当が 8.5 円へ減配となりましたが、今期営業利益700億の達成を前提に期末配当をそれ以前の水準である 16.5 円へ戻したいと考えております。